

「国際平和の追求－国際法の現場を知る－」

担当教員名 岡松 暁子 北川 徹哉

コース概要

日程	2018年3月9日～16日
場所	オランダ(アムステルダム、ハーグ、デルフト) ドイツ(ハンブルク、リュースベック)
参加人数	25名

コースのねらい

国際裁判所、大使館、リュースベック旧市街地（世界遺産）等を訪れ、日本を振り返りつつ国際感覚を身に着けます。また、アンネ・フランクの隠れ家やノイエンガンメ強制収容所を見学し、ナチスによるユダヤ人迫害について学びます。

内容

I 国際社会の秩序形成、国際紛争の平和的解決

1. 国際司法裁判所（ICJ）は、国際連合の主要な司法機関で、国家間の紛争を裁判するところです。我々はこの裁判所の法廷で、職員の方から英語で国際裁判の仕組みや特徴についての説明を受け、それに対して英語で質問をしました。



ICJの前にて



ICJの法廷にて講演を拝聴

2. 国際刑事裁判所（ICC）では、法廷を見学し、日本人職員の方から、ICCの役割りと課題について講演をしていただきました。国際社会が個人を裁くことの意味を考えました。

3. 在蘭日本大使館では、外交官の方々から、国際社会で日本が果たす役割について、また、外国からみた日本についての貴重なお話を伺うことができました。

4. ハンブルクの国際海洋法裁判所（ITLOS）では、柳井俊二判事に、これまでに同裁判所で争われた事例や、海洋の国際管理について、大法廷にて講演していただきました。海洋国家である日本が海の秩序形成に果たす役割は大きいと感じた時間でした。



ITLOSの大法廷にて柳井裁判官の講演を拝聴

II 人権について考える：ユダヤ人迫害問題を題材に

アムステルダムにあるアンネ・フランクの家は、第二次世界大戦期にナチスの迫害から逃れるために、フランク一家など8名が隠れていた家です。本棚の裏の部屋で約2年もの間、息を殺すようにして生活していたことを思うと、胸が痛みました。

ハンブルグ郊外のノイエンガンメ強制収容所には、ユダヤ人が働かされていた工場の跡が残っています。ここに来ると学生たちの言葉が少なくなり、このような悲劇を二度と繰り返してはいけないとの思いを強めました。

Ⅲ 外国の歴史・文化への理解

世界遺産となっている、ハンザ都市リュベックの旧市街を散策し、かつて北海・バルト海交易で栄えたハンザ同盟について学びました。また、一日の研修が終わったあとは、遅くまであいている美術館や、オペラの鑑賞など、思い思いの時間を過ごしました。ヨーロッパの文化に触れ、多様性を身をもって感じ、世界で仕事をする日本人の方々と交流することで、それぞれが大きな刺激を受けたことと思います。

学習を終えて

<2年 矢澤優季>

私は今回の FS で訪れた国際機関を、国際平和を実現するための組織として習ってきましたが、国際平和と言っても、各国は自国の利益を第一に考え、メリットが一致した時に初めて協力し合うものであり、実現は不可能なのではないかと常々考えていました。しかし今回直接お話を伺い、いかに現場の方々が対話を大事にし、真剣に国際平和の実現を目指しているのかを知ることができました。ICC では協力して欲しい国がどのような立場にあるのか、懸念材料は何か、など事件の背景にある情報を欠かさずチェックしているそうです。協力できない国にはそれなりの理由があり、ほとんどの国は普段から協力的で、ICC は非協力国にいかに協力してもらうのかを持っている情報をもとに交渉を行うと教えていただきました。それらのお話から、私は国家間の交渉であっても、相手はあくまで人なのだと思います。実際に国際機関を見て回り、これらは無機質なものなどでなく、世界の国々が平和を実現しようとした思いの結晶なのだと改めて認識することができました。

<国際海洋法裁判所裁判官 柳井俊二氏>

法政大学フィールド・スタディー受け入れ先の一つとして、在ハンブルグ国際海洋法裁判所でこれまで4回学生達を受け入れ、大法廷において同裁判所の判例を中心に講義を行い、学生達と引率の先生方の打ち上げ会に参加して学生達の声を直接聞くこともできた。参加学生達は皆、新鮮な刺激を受けていた。同時に、英語力の弱さを痛感した学生達も多かった。新しい文化は、しばしば異文化間の交流から創造される。特に若年層の内向き傾向が強い我が国では、若い内に外国の文化に接して良い刺激を受ける機会を提供することが大事である。その意味で、このフィールド・スタディーは、素晴らしいプログラムである。更に、このような海外研修を一過性のものとすることなく、留学等一層の国際経験獲得に向けた指導をすることも必要であろう。グローバルに活動する内外の企業が国際経験を持つ人材を求めていることを学生達は知るべきである。この有意義なプログラムが末永く続くことを願って止まない。



ノイエンガンメ強制収容所の工場跡



リュベック旧市街地のホルステン門



デルフトのグロチウス像前